

釜石で「するめっこ釣り」

釜石の海沿いの地区では小正月行事「するめっこ釣り」が2年ぶりに復活し、子どもたちが大漁



を祈願しました。この行事は釜石市の尾崎白浜地区に古くから伝わる大漁祈願の行事で、津波で漁船が流され、去年はこの行事も中止を余儀なくされましたが、今年は鉢巻姿の15人の子どもたちが仮設住宅の並ぶ地域を巡り、家の軒先でイカ釣りを演じました。そして家の人に「いくつ釣った？」と聞かれると、船いっぱいの意味する「満船！」と元気良く答えていました。地域の人「津波の前、当たり前にあった風景がまた一つ戻った」と笑顔を見せていました。(1/15 ニュースエコーより)

全国の「恋の駅」切符発売



バレンタインデーまであと1ヶ月、三陸鉄道の「恋し浜」駅など全国に4つある「恋」がつく駅が連携した企画切符が15日発売されました。恋愛成就、そして三陸鉄道の復興支援の願いが込められた切符です。「日本に4つ恋の駅きつ

ぷ」と名づけられたこの企画。県内では宮古など三陸鉄道の3つの駅で発売されました。「恋の駅きつぷ」は3月14日までの販売で三陸鉄道分は1セット520円、500セット限定。宮古、釜石、盛の各駅で購入できるほか現金書留でも受け付けていま

す。また、ほかの鉄道会社の分も現金書留やインターネットで購入できます。(1/15 ニュースエコーより)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、15日にプレオープンした「陸前高田市復興サポートステーション」についてレポートしてくれました。これは先月で閉所した陸前高田市のボランティアステーションを引き継ぐもので、NPO法人P@CT(パクト)という地元団体が母体となり運営、元の気仙町の浸水地にプレハブを建て、ボランティアの受け皿として活動します。また、ボランティアと市民との交流となる活動にも力を入れていきたいという事です。(1/16)



大船渡で小正月行事「スネカ」



大船渡市の吉浜地区で15日夜、小正月の奇祭「スネカ」が行われ、恐ろしい姿の鬼たちが怠けている子どもを戒めようと集落を回りました。国の重要無形民俗文化財にも指定されているスネカは、大船渡市三陸町の吉浜地区に200年以上も前から伝わるとされる小正月の伝統行事です。恐ろしい形相の「スネカ」は怠けてばかりいる子どもたちを戒めようと、大きな叫び声を出しながら家に入りました。子どもたちが泣きだしても「良い子で過ごす」と約束するまでスネカは立ち去りません。家の人「しっかりした大人になってほしい」とスネカの訪問に感謝していました。この日は25のスネカが地域の350軒を回りましたが、スネカが訪れた家は今年1年の無病息災が約束されるということです。(1/16 ニュースエコーより)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122